



職場 紹介

技術を磨く。夢を叶える。
あなたの笑顔をまっています。

● 作業療法士



作成

国立病院理学療法士協議会中国四国部会
国立病院作業療法士協議会中国四国グループ部会
国立病院言語聴覚士協議会中国四国グループ部会

中国四国グループ関連病院・施設の紹介

鳥取県

鳥取医療センター
米子医療センター

島根県

松江医療センター
浜田医療センター

岡山県

岡山医療センター
南岡山医療センター
長島愛生園
邑久光明園

広島県

呉医療センター
福山医療センター
広島西医療センター
東広島医療センター
賀茂精神医療センター

山口県

関門医療センター
山口宇部医療センター
岩国医療センター
柳井医療センター

徳島県

とくしま医療センター東病院
とくしま医療センター西病院

香川県

高松医療センター
四国こどもとおとなの医療センター
大島青松園

愛媛県

四国がんセンター
愛媛医療センター

高知県

高知病院



鳥取医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士23名

言語聴覚士8名

当院の特徴

『脳』と『こころ』の病院です。

当院は鳥取県東部を診療圏域とする中国四国グループの「精神疾患」に関する中心的施設であるとともに、神経・筋疾患、呼吸器疾患、重症心身障害に関する専門的な医療等の機能を備えた医療施設です。特に地域医療として回復期リハビリテーションと認知症の診療を行っており、近年は「パーキンソン病センター」を開設し、県内外の患者さんに対し専門的なリハビリテーションを提供しています。

職場責任者からのメッセージ

当院リハビリテーション科では、職員一人ひとりが充実した職場環境で働きがいを感じながら成長できるよう努めています。社会性や専門性を高めるため、日々研鑽を積み、患者様に最適なリハビリテーションを提供しています。組織内では各自が自己の役割と責任を認識し、チーム全体で「患者ファースト」の精神を大切に業務に取り組んでいます。また、専門的な教育プログラムや研修が充実しており、スタッフが自身のキャリアを積み重ね、成長できる環境が整っています。患者さんの生活の質向上を目指し、全力でサポートしています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
 電話番号（代表）：0857-59-1111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tottori.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

■身障部門

回復期チーム／脳血管障害や整形疾患（下肢骨折、頸椎症等）を対象に、自宅復帰に向けたリハビリテーションを行っています。

難病チーム／パーキンソン病、ALSなどを中心に、長期療養入院から短期集中リハビリテーション入院までサポートしています。

重症心身障害チーム／重症心身障害児(者)に対しては、遊びを通して個性や主体性を発揮できるよう取り組んでいます。

■精神部門

閉鎖病棟(急性期・慢性期)、医療観察法病棟、認知症病棟、精神科デイケアと、幅広い領域で作業療法を実施しています。

その人らしさを尊重した、その人らしい生活の実現に向け「共に一歩歩みだす」を理念として取り組んでいます。



※写真④ VR治療機器であるmediVRKAGURA®を導入し、上肢機能障害、失調、複視・めまい、高次脳機能障害、バランス障害など幅広い対象に実施しています。

※写真⑤⑥ ドライビングシュミレーターを用いて注意、判断、危険予測の評価を行います。

※写真⑦⑧ MR治療機器であるリハまるは食事など日常生活で高次脳機能障害の練習が行えます。視線履歴で左側のお皿を見ていないことがわかります。

教育体制

新人教育プログラムは、リハビリテーション科全体のものに加え、作業療法部門独自のプログラムも作成しています。パーキンソン病の運動療法を専門的に行うLSVT®BIGや3学会合同呼吸療法認定士など、各種資格取得を支援しています。

学術活動

学会発表：令和6年度 6件 地域講演会 1件

先輩からのメッセージ

当院では、様々な病期の患者さんを対象にリハビリテーション（以下リハビリ）を提供しており、多方面に知識や技能を学ぶことができます。また、現在の脳卒中リハビリ診療では、様々な新しい治療が行われており、当院においてもVR治療機器を導入し始め、訓練の多様化が進んでいます。その他にも、新人教育プログラムなどの手厚いサポートや勉強会も頻繁に行われているので、安心してステップアップできる環境だと思います。是非、国立病院機構中国四国グループと一緒に働きましょう。（入職6年目）





対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名 作業療法士4名

当院の特徴

整形外科（上下肢・手指の骨折、人工関節、靭帯損傷等）呼吸器・循環器の内部疾患、がん（周術期含む）、緩和ケア病棟患者も含め、様々な疾患を対象としています。令和6年12月より地域包括医療病棟の患者さんのリハビリも実施するようになりました。この病棟の患者さんや、術後離床の必要な患者さんに対する早期介入のため、休日出勤を実施しています。

職場責任者からのメッセージ



1人1人がスタッフ同士で相談・協力しあってリハビリ部門を盛り上げていけるよう、声掛けしあえる雰囲気づくりを目指しています。個々の能力を高めていくことも必要ですが、組織としてスタッフを支え合うシステム作りを考えています。各スタッフとコミュニケーションをとって働きやすい職場になるよう心掛けています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒683-0006 鳥取県米子市車尾4-17-1
 電話番号（代表）：0859-33-7111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yonago-mc.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は整形外科にて手術が毎週行われ、リハビリテーション科では主に手術後の急性期のリハビリテーションを行います。特に、作業療法部門では、手の外科の専門医がリハビリテーション科の医長でもあり、手の外科のリハビリテーションに対応しています。

その他、消化器外科で大腸がんなどの術後患者さんや抗がん剤の化学療法中の患者さんへ廃用予防のための介入、COPD、肺炎患者さんなどの呼吸リハビリテーションなど、様々な疾患の患者さんの治療に関わっています。



教育体制

新人教育プログラムに則り進めていきます。また指導體制も、作業療法士のみでなく、理学療法士のスタッフとも隔てなく、治療についての相談が出来る環境です。さらに週に複数回、医師を含めたカンファレンス、回診があり、他職種とも相談しやすい環境です。リハビリテーション科内では月に1回、持ち回りで勉強会を行っており、症例報告等でスタッフ間でディスカッションを行う機会もあります。またOT専門分野として、当院から日本ハンドセラピー学会内にある資格試験の支援を受けた実績もあります。

学術活動

作業療法部門では自分のペースで、学会参加や学会発表を行っております。科内では発表に関して必要な場合は、医師に協力を依頼したり、他部門との共同研究した例もあります。

他部門との連携

医師、病棟看護師、専門看護師、他のコメディカルとの連携は日々実施されています。その他、地域連携として退院支援のため、メディカルソーシャルワーカーと連携し、必要な際には退院前カンファレンスに参加し、ケアマネージャーや在宅ケアを行うスタッフと情報共有しています。また、糖尿病教室、呼吸器勉強会、市民講演会などにも参加しています。

先輩からのメッセージ

当院は、急性期医療の提供を担っており、急性期リハビリテーションに対して不安や怖さもあるかと思えます。入退院の回転も早く、慌ただしい毎日ではありますが、様々な疾患を経験することができるのが、魅力の一つです。日々勉強、勉強で分からないことも沢山ありますが、OT・PT問わず様々な分野でのスペシャリストである先輩方が的確に指導して下さるので安心してください。職場の雰囲気としても職種の隔たりなく、リハビリテーション科全体として明るい職場です。



松江医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士10名

作業療法士5名

言語聴覚士3名

当院の特徴

島根県と鳥取県西部を診療圏として、呼吸器疾患・神経筋疾患・重症心身障害医療の3領域を専門とした医療機関です。呼吸器疾患に関して地域における「呼吸器病センター」として自負を持ち診療にあたっています。神経難病に関しては、島根県の難病診療分野別拠点病院（神経）に指定されています。

職場責任者からのメッセージ



「ともに考え、ともに成長する」ことを目標とし、組織人としての資質を高め、地域に求められる医療を提供し、患者確保にも努めます。またワークライフバランスも重視し、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指します。松江はチームワークが良く、困ったときには皆で助け合うことができる誇らしい職場です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒690-8556 島根県松江市上乃木5-8-31

電話番号（代表）：0852-21-6131

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://matsue.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は神経難病、呼吸器疾患、重症心身障害に対するリハビリテーションを中心に行っています。

パーキンソン病関連疾患には、短期集中リハビリテーション入院を行っており、身体機能向上やADL動作の向上に向けた介入から疾病教育まで幅広い視点を持って取り組んでいます。

ALSなどの長期入院の方に対しては、意思伝達装置の導入を通じたコミュニケーション支援、QOL向上を目的とした、作業活動支援を行っています。

呼吸器の分野では在宅生活に向けたADL動作支援や環境整備に対し取り組んでいます。

がんの分野ではトータルペインの緩和に向けた関わりを行っています。

発達障害の分野では遊びや学習を通して発達を促す支援を行っています。



出典：Creat

当院OT部門の特徴の一つ
意思伝達装置「視線入力装置」



作業療法室の風景

教育体制

新人教育プログラムとして理学療法と共通部分は、OSCEを導入し、入職後から臨床につなげるサポート体制を敷いています。

指導者や相談できる療法士を配置し、安心して日々の業務に取り組める体制を敷いています。最初の数か月間は密に指導者からのフィードバックを行います。

学術活動

令和6年度実績：学会発表2件

(病棟生活が充実した筋ジストロフィーの症例～SSTを用いて～/ AAGIを導入したことでPC操作のストレスが軽減した一例)

院外向け講師3件

呼吸器疾患、神経難病の中核病院として3学会合同呼吸療法認定士のポイントが取得できるセミナーや神経難病支援にかかる講演会などに関わっています。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種（医者、看護、薬剤、メディカルソーシャルワーカー）とのカンファレンスが開かれます。カンファレンスを通し退院前訪問や家族指導など行っております。

筋ジストロフィーの患者さん達と職員とで車いすサッカーチームを作り活動しています。

先輩からのメッセージ

入職して3年目になります。

当院のリハビリテーション業務は、ADL訓練・退院時指導・コミュニケーションの代替え訓練等、多岐にわたります。生活背景と関連付けたアセスメントを行い、退院支援を行っています。その中で難しさを感じていますが、経験豊富な先輩方に指導や助言をいただきながら日々成長することができ、やりがいも感じています。ぜひ国立病院機構に興味を持って頂けたらと思います。





浜田医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士19名

作業療法士12名

言語聴覚士5名

当院の特徴

当院は、県西部唯一の3次救急医療から在宅復帰まで、幅広くカバーする地域の中核病院です。理学療法は、急性期・回復期・地域包括・緩和ケアに大きく分かれており、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、がん患者等の幅広い疾患を対象にリハビリテーションを行っています。

職場責任者からのメッセージ



浜田医療センターリハビリテーション科は「必要なリハビリテーションが行き渡る体制の継続」「適切な診療報酬を請求しながら病院収益に貢献する」「来年も浜田医療センターで働きたいと思う職場環境をみんなで作る」を目標に掲げ、日々励んでいます。

「医療を通じて“地域で生きる”を支援する」という病院理念のもと、リハビリでも急性期・回復期・地域包括・緩和ケアなど幅広い病期や領域に対応しているのが特徴です。こういった特徴をもつ病院は珍しく、スタッフも多彩なスキルを習得する必要がありますが、それだけに良い経験ができる職場だと考えております。

誰もが学べて成長でき、充実した職場を目指していきます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777-12
 電話番号（リハビリテーション室）：0855-28-7098
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://hamada.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、島根県西部地区唯一の3次救急医療施設に指定されており、超急性期から在宅復帰まで幅広く医療を担う地域の中核病院です。院内には急性期病棟だけでなく、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟があり、対象疾患は、整形・脳疾患・呼吸器疾患・心臓・がん・内部疾患など様々な疾患と病期を経験することができます。

現在、リハビリテーションスタッフ36名の中で12名のOTが在籍し、日々の臨床に取り組んでいます。OTの中には、呼吸療法認定士、がんのリハビリテーション研修修了者も複数名おり、地域医療に貢献できる人材の育成にも取り組んでいます。



教育体制

教育体制については、リハビリテーション科全体で力を入れて取り組んでおり、新人スタッフに対しては、一人一人に指導者を付けたプリセプター制度を実施しています。新人教育プログラムも充実させており、院内での症例報告会や移乗の介助方法指導から各疾患ごとのリスク管理勉強会も実施しており、様々な疾患が混在する急性期の中でも安心して臨床に入っていけるサポート環境を用意しています。

学術活動

3学会合同呼吸療法認定士 3名 がんのリハビリテーション研修修了者 8名
浜田准看護学校への講義 地域医療従事者研修会講師 他

他部門との連携

様々な地域のニーズに対応する病棟があり、同じ患者さんを担当するPT/STとの情報交換なども積極的に行っています。科内連携以外にも、リハビリカンファレンスでは、主治医をはじめ、看護師、MSW等と退院支援に向けて協議を行ったり、退院前訪問指導では実際に患者さんのご自宅でADL動作の訓練や動作確認を行うなど、地域のケアマネージャーやご家族、連携施設のスタッフにも情報提供を行っています。

先輩からのメッセージ

経験4年目です。当院の特徴としては、急性期から回復期、地域包括、緩和ケアまで幅広い領域を経験し、学ぶことができます。

新人研修は各疾患の勉強会やプリセプターと共同で作成する症例発表などがあり、多くの臨床経験を積むことができます。

先輩方はみんな優しく臨床のことなど困ったことがあれば何でも相談できる環境です。また年次休暇も利用しやすいため、しっかりと休息をとることができとても働きやすいです。





岡山医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

運動器

循環器

脳血管

新生児

呼吸器

がん

神経難病

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士23名

作業療法士8名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は平均在院日数が約10.5日の急性期病院です。対象となる疾患は、整形外科・循環器・脳血管・新生児・呼吸器・がん等多岐にわたります。早期介入と早期の機能回復をスローガンとし、介入は入院直後または術後当日の早い段階から行われます。心臓リハビリテーションでは心肺運動負荷試験に基づいた運動指導や日常生活指導などを含む、包括的かつ集学的なリハビリを行っています。呼吸ケアサポートチームや緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどにも参加し、多職種と協同した活動も行っていきます。

職場責任者からのメッセージ

当院は急性期医療に特化しており、上記のように平均在院日数の短縮化を目指しているため、リハビリテーション科には早期介入と介入効果の向上が常に求められます。

そのような患者さんや病院からのニーズに応えるためにも、当科では職員研修の充実を図っています。新人・中堅職員・役職者など世代別対象の研修やプレゼンテーション指導に注力し、在籍している職員がインセンティブを感じられる職場作りに努めています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-1192 岡山県岡山市北区田益1711-1

電話番号（代表）：086-294-9911

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://okayama.hosp.go.jp/>

504-info@mail.hosp.go.jp



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門は、8名在籍しています。
脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患、整形疾患（外傷、脊椎疾患、人工関節置換術等）、がん患者さんを対象としています。早期から作業療法介入を行い、機能回復やADL・QOL改善にむけた取り組みを行っています。

また、金川病院には1名が在籍し、自宅復帰を目標に作業療法を行っています。



教育体制

新人教育プログラムは、新人1人に対してプリセプターがつきます。患者さんの評価・治療の指導や相談ができる体制を整えています。また、リハビリテーション科内研修会を定期的に開催し、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士とともに職員全体のスキルアップを図っています。

学術活動

学会発表：令和6年度 2件

その他：症例検討会

院内勉強会講師、グループ研修講師 院外勉強会講師等

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に多職種カンファレンス（医師、看護師、MSW等）を実施しています。自宅復帰の際に、必要に応じ退院前カンファレンス実施し、病院から在宅へスムーズに移行できるように支援しています。

先輩からのメッセージ

当院は急性期総合病院として、多種多様な分野・疾患を対象に作業療法を提供しております。多様な疾患に対して治療を行うことで知識や技術・作業療法の基礎を学び、周りの先輩方と切磋琢磨してより良い医療提供を目指しております。また多職種との連携も多く、社会的な経験・成長に繋がると思います。

国立病院機構中国・四国グループでより良い知識や技術を学びながら働いてみませんか。





南岡山医療センター

対象病期

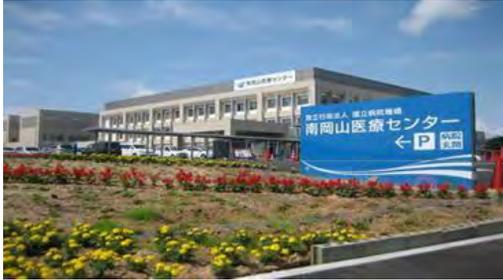
高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士11名

作業療法士9名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は、神経・筋疾患病棟、重症心身障害児者病棟、呼吸器感染症病棟、急性期病棟を有しています。リハビリテーションにおいても入院・外来患者さんの急性期・維持期に介入しています。職員は、子育て世代、介護世代等と各年代層の背景に対応できるようワークライフバランスを支援しつつ、職員の目指すキャリアアップも支援しています。

職場責任者からのメッセージ



みなみ君

職場は新卒1年目から、25年前後までの経験年数を有するスタッフで構成されています。臨床業務について常に先輩からの指導や助言が得られる体制です。職員間のコミュニケーションも経験年数に関わらず連携がとれるようにしています。また、ハラスメント防止についても積極的に職員への啓発を行うとともに、メンタルサポートにも気を配っています。「職員みんなが働きやすい職場、働き甲斐のある職場、病院のために頑張る職場」をモットーにしています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

電話番号（代表）：086-482-1121

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://minamiokayama.hosp.go.jp/>

アクセス：https://minamiokayama.hosp.go.jp/about/index_3.html

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

急性期病棟（整形・呼吸器・内部疾患・心臓リハビリテーション）、神経・筋疾患病棟（パーキンソン病・ALS・筋ジストロフィー）、呼吸器病棟（COPD・間質性肺炎・肺気腫）、重症心身障害児者病棟の患者さんを担当しています。様々な疾患に関わることができ、急性期から維持期まで幅広く経験できるのも当院の特徴です。



教育体制

新人スタッフ1名に対し、総合的な指導者を1名配置しています。加えて、メンターを配置し安心して指導が受けられるよう、定期的なメンタルサポートを行っています。新人指導体制は2年間継続され、新人スタッフが幅広い疾患に対応できるようサポートしています。

学術活動

学会発表：令和6年度 1件

その他：県士会主催研修会や国立病院機構主催研修会、病院主催による呼吸ケア教室・活き息さわやかに過ごす会の講師

学会発表に関するテーマ探し、研究計画、抄録原稿作成、論文作成、発表原稿等について指導しています。また認定作業療法士、呼吸療法認定士、心不全療養指導士等の資格取得者も在籍しており、資格取得へのサポートも行っています。

他部門との連携

定期的に多職種カンファレンスを実施し、チーム医療を行っていくために、患者さんについての情報共有や目標設定を行います。退院に向けて医療者間のコミュニケーションの強化を大切にしています。

神経・筋疾患病棟では、コミュニケーションツールの確保として、特殊スイッチによる意思伝達装置の導入や操作、透明文字盤の検討等を多職種で行っています。

先輩からのメッセージ

今年で3年目になります。入職当初は不安もありましたが、各種勉強会やプリセプター制度により教育プログラムが充実しているため、安心して業務に取り組んでいます。職場の雰囲気も良く、相談しやすい環境です。ぜひ国立病院機構中四国グループで一緒に働きませんか。





国立療養所 長島愛生園

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 4名

作業療法士 1名

言語聴覚士 1名

当院の特徴

当園は1930（昭和5）年に、日本で初めての国立療養所として誕生しました。その当時ハンセン病が感染症であることはわかっていたましたが、有効な治療法がなく、国の政策として療養所への隔離が行われました。入所者の皆様は、ハンセン病という病気は治っているにも関わらず、高齢化や後遺症、今なお残る偏見・差別により社会復帰が困難なため、当園で生活されています。

職場責任者からのメッセージ

当園は入所者ファースト、職員もファーストをモットーに全職員が一丸となり、日々の業務に取り組んでいます。入所者の皆様と接する中で、社会的背景を理解し、ハンセン病の歴史に深く感慨がわくものと思います。またワークライフバランスも重視しており、この職場やNHOで働き続けたいと思える職場づくりを目指しています。チームワークではどこよりも優ると自負している当園の理学作業療法室に、ぜひ一度お越し下さい。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539

電話番号（代表）：0869-25-0321

理学作業療法室：泰地（たいち） 内線：828

https://www.hosp.go.jp/~aiseien

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

ハンセン病およびハンセン病後遺症に対するこれまでの作業療法は、末梢神経障害や機能障害による二次的病変や後遺症を予防・軽減することを目的としていました。

しかし、現在では入所者様の高齢化に伴い、残存する身体機能や後遺症を考慮した治療プログラムを立案しています。たとえば、大腿骨頸部骨折などの急性期から維持期、健康に過ごすための介護予防の運動など、入所者様の必要性に合わせて行っています。

また変形や欠損等の機能障害については、機能回復を目的に義肢装具士と連携しています。



教育体制

入職後は、個人の習熟度に応じて先輩作業療法士または理学療法士から指導を受けることができます。指導を受ける期間に制限はありません。納得できるまで知識の習得・技術の指導を受けられる環境であります。

学術活動

令和6年度：0件

他部門との連携

園内委員会主催で介護予防活動（レクリエーション）を第2・4の火曜日に実施しています。また各部署でのカンファレンスについても、医師、看護師、介護員、MSW、理学療法士、言語聴覚士とともに定期的に参加しています。必要に応じて一般舎への訪問、センターへの訪室など他部署と協力し、退院時指導にも努めています。

先輩からのメッセージ

入職し15年目になります。先輩理学療法士や医師、入所者の方々から暖かいご指導と励ましをいただき、少しずつですが自信をつけることができました。経験の豊富な職員が多く、公私にわたり適切な助言や支援を受けることができる施設です。また平成30年6月からは新しく改築した総合診療棟で臨床をしています。新しい建物で、清々しい気持ちで働くことができる長島愛生園です。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

総合診療棟外観



邑久光明園全景



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士3名

作業療法士2名

言語聴覚士1名

当院の特徴

国立療養所邑久光明園は、全国に13ある国立ハンセン病療養所のうちのひとつで、岡山市の東南3.5Kmの瀬戸内海に浮かぶ長島にあります。瀬戸内海の温暖な気候と四季折々の美しい自然に満ちあふれた環境は、療養に最適の地とされております。

ハンセン病はらい菌によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は神経組織との親和性が高く、末梢神経がおかされることによって生ずる神経障害がもっとも重要な症状です。現在では、抗生剤を中心とする治療法が確立されており、完治する疾病です。

しかし、現在当園におられる入所者様の多くは有効な治療法がない時代に発症したため、重複した障害を後遺症として残してしまいました。また、入所者様の平均年齢は約88歳と高齢化しています。そのため、リハビリテーション及び介護予防が重要となっています。

職場責任者からのメッセージ

邑久光明園の職員は入所者の皆様の一日一日を大切に、今後の人生をよりあるものにできるよう仕事に従事しています。

また、職場はワークライフバランスの取り組みを推進しており、働きやすい職場環境を整えています。業務は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・義肢装具士が連携し、入所者の皆様がよりよく生活できる様に努めています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253
 電話番号（代表）：0869-25-0011
 リハビリテーション室まで
<https://www.mhlw.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

宿当直あり

部門紹介

作業療法士：2名

作業療法部門では、入所者の皆様に対してのADL訓練、機能訓練、福祉用具の提案、自助具の作成、環境調整などを実施しております。また入所者の皆様の平均年齢は約89歳と高齢化しているため、介護予防は勿論の事、QOLを最大限に保つための生活支援に力を入れています。

入所者の皆様が毎日安心して心豊かな生活を送れるようサポートをする事が、当園における作業療法士の役割です。

また当園では入所者の皆様との関わりを大切にしており、園内での夏祭りやカラオケ大会等の行事に積極的に参加しています。



教育体制

新規採用者・転入者には、入職後3日間の研修を実施しており、当園の理念や活動内容、ハンセン病の歴史について深く学ぶ事ができます。

科内では、1日に2回ミーティングを実施して情報共有を図っており、科内全体で業務のサポートをできる体制を整えています。

園内での研修会は、各委員会が主催して定期的実施しており、職員全体の医学知識の向上に力を入れています。

他部門との連携

当園では、①摂食嚥下障害対策委員会（SST）②人生サポート委員会（JST）③栄養サポート・創傷対策委員会（NST）④医療安全管理委員会 ⑤感染対策委員会のチームを立ち上げています。また病棟・入所者センターの職員と連携し、入所者の皆様の生活上の問題点に対して即座に対応できる環境を整えています。

学術活動

令和6年度：学会発表1件（ハンセン病コメディカル学術集会）

先輩からのメッセージ

令和4年度より当園へ転入となりました。当初は新しい環境に不安がありましたが、園内・科内でのサポート体制が整っているため、自信を持って業務に取り組む事ができるようになりました。また、経験豊富で勉強熱心なスタッフが多いので、セラピストとしてスキルアップできる環境も整っています。みなさんも私たちと一緒に当園で働いてみませんか？





対象病期	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
------	-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

医師3名 理学療法士21名 作業療法士13名 言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は39診療科、病床数700床を有する国立病院機構の中の大規模病院のひとつであり、「地域がん診療連携拠点病院」、「3次救命救急センター」、「地域周産期母子センター」、「災害拠点病院」、「地域医療支援病院」などの機能を有する中核的な高度急性医療機関です。

職場責任者からのメッセージ

呉医療センターリハビリテーション科では相互尊重コミュニケーションを実践し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。約40名のスタッフ各々が役割を担い、科内で活躍できる場が準備されています。また、抄読会や症例報告、勉強会などを積極的に実施し、個々の臨床力およびリハビリテーション科の組織力向上に努めています。資格や認定の取得、学術活動の推進も行っています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：〒737-0023
 広島県呉市青山町3丁目1
 電話番号（代表）：0823-22-3111
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kure.hosp.go.jp/>



呉駅よりの案内図

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院には14名の作業療法士が在籍し、そのうち12名が身体障害領域、2名が精神障害領域に従事しています。当院の作業療法部門の特徴は、急性期病院であるため、発症後まもない重症の患者さんが多いこと、もうひとつは、緩和ケア病棟・精神科病棟もあるため、体（身体障害領域）だけでなく心（精神障害領域）のケアを必要とされる方も多いことです。

365日診療体制をとっており、リハビリテーションが重要となる発症早期の患者さんにシームレスかつ満足感の高い介入を行っています。幅広い視野をもった作業療法士を多く育成しています。



教育体制

当院では、“新人を大切にすること”がひとつの文化として根付いています。一年目は各チームをローテーションし、社会人・作業療法士としての基礎を身につけることができます。新人にはプリセプターがつき、1年を通してゆとりを持って診療できるよう、担当患者数の調整をしています。採用時のオリエンテーションや勉強会（院内・科内・チーム別）が充実しており、学会発表など学術面に対するサポートも積極的に行っています。

学術活動

過去の発表実績：令和6年度 1件

院内取り組み発表会での口述発表や広島県作業療法士会・国立病院総合医学会での研究発表に向けて取り組んでいます。リハビリテーション科の「教育・学術部」が機能しており、新採用者へのオリエンテーション、学会発表のサポートなど職員のスキルアップを応援します。

他部門との連携

各診療科ごとに医師・看護師・MSW・薬剤師・栄養などと多職種カンファレンスが週1回開催されています。

退院前にはカンファレンスや、在宅診療スタッフへの情報交換なども必要に応じて行われ、病院から在宅へスムーズに移行できるよう連携を図っています。

先輩からのメッセージ

当院は高度急性期医療を担っており、幅広い疾患に対応すべく作業療法士もジェネラリストの役割が求められています。そこで作業療法部門もチーム制を導入し、半年～1年毎にローテーションを行い、知識やスキルの循環をはかり、研究、学会発表、資格取得等で専門性を高め合っています。それができるのもベテラン、中堅、若手がバランスよく配置されているためであり、当院の強みです。

また新人の方には1年間を通して教育プログラムが組まれており、プリセプターが全面的にサポートする体制があることも魅力だと思います。



対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士14名 作業療法士10名 言語聴覚士3名

当院の特徴

広島県東部医療圏の中核病院として、岡山県西部地域の医療も担っています。「苦痛のない医療」を実践すべく、内視鏡や腹腔鏡を駆使した検査処置や手術に加え、緩和ケアチームをはじめとして各職種の強みを発揮したチーム医療を促進しています。また、治療方法の開発など臨床研究や治験についても積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



福山医療センターでは、忙しい日々の中でもスタッフ全員が真摯に患者さんと向き合い、前向きに業務に取り組んでいます。教育・発表の機会も豊富で、常に学び、成長できる環境が整っています。チーム内の連携も良好で、助け合いながら楽しく働けるのが当科の魅力です。

是非一緒に、新たな一歩を踏み出しましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17
 電話番号（代表）：084-922-0001
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法は、整形外科（人工関節、脊椎疾患、上肢疾患、骨折等）、がん（周術期から終末期）、小児等の様々な疾患を対象としています。入院後早期からのリハビリテーション体制を構築し、患者さんの早期離床及び早期ADL再獲得に寄与しています。

上肢外傷や腱板断裂の術後は、外来でも作業療法を継続しています。必要に応じ自助具も作成して生活復帰に向けた支援をしています。

このように、当院の作業療法は急性期から在宅まで幅広くサポートしており、様々な分野の経験を積むことができます。



教育体制

当院独自の新人教育マニュアルに基づいて、指導者等を配置し新人さんの能力に応じた段階的指導を行っています。当面は整形外科での人工関節等の作業療法を集中的に学んでもらい、診療経験を積んでもらいます。慣れるまでは、指導者だけでなく先輩らがサポートしてくれるので安心してください。

また、OTスタッフには3学会合同呼吸療法認定士やがんのリハビリテーション研修修了者、医療リンパドレナージセラピストなど様々な資格取得者がいるため、幅広い指導を受けることもできます。

学術活動

令和6年度 学会発表：2件 国立病院総合医学会にて2演題発表

当院は、医中誌やメディカルオンライン等が閲覧がいつでも行え、様々な文献を手に入れる環境が整っています。統計ソフトも保有しているため、研究や学会発表がしやすい環境です。先輩から発表等の指導を受けることもできます。

他部門との連携

褥瘡委員会や緩和ケア委員会、認知症ケアチームなどに作業療法士が所属し、専門性を活かして他部門と連携を図っています。

また病棟カンファレンスにも積極的に参加して、患者さんのリハビリテーションを多職種協同ですすめることで効果を最大限に高めています。

先輩からのメッセージ

1年目は何も分からず不安なことばかりでした。業務につまづいたときも、成長度合いに合わせて教育プログラムを柔軟に変更してくださり、日々の成長を感じることができています。また、先輩方は業務で困った時に相談すると、疾患の病態や禁忌事項、治療のことについて熱心に教えてくれます。福利厚生も充実しており、リフレッシュしやすいです。ぜひ一度、見学に来てみてください。





広島西医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士14名

作業療法士8名

言語聴覚士4名

当院の特徴

急性期病床と筋ジストロフィーやALSをはじめとする神経・筋疾患、重症心身障がい児（者）の療養病棟を兼ね備えた“ケアミックス型”の病院です。複数の異なった領域のリハビリテーションを経験できます。外来リハビリも行っています。

職場責任者からのメッセージ



神経・筋疾患への対応は学校で教わらないことも多く、勉強の毎日です。急性期リハビリテーションも含め、患者さんひとりひとりとしっかり向き合い、相手のニーズに応えられるようコツコツと努力する。。。そんなスタッフが多いです。「患者さんとともに」これからも、成長しつづけるリハビリテーション科を目指しています！

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号

電話番号（代表）：0827-57-7151

リハビリテーション科 廣川（職場長）まで

<https://hiroshimanishi.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

整形外科疾患：上肢疾患の中でも、肩腱板断裂術後の後療法（人工関節を含む）が主な対象となっています。

神経筋疾患：筋ジストロフィーやALS患者さんを対象とした意思伝達装置・操作スイッチの導入、パーキンソン病患者さんへのOT介入を多く行っています。

重症心身障がい児・者：コミュニケーション支援や環境調整など考慮しながら介入しています。

血液がん：血液腫瘍患者さんのADLや手指・認知機能維持改善プログラム

各領域で専門性の高い作業療法を展開しています！



教育体制

新人に対しては、当科新人教育プログラムを用いてプリセプターを中心に指導を行います。また、肩腱板損傷の評価・介入や神経・筋疾患患者さんが用いるスイッチ、重症心身障がい児者へのかかわり方などをテーマに初歩からの勉強会を行っています。実際の臨床現場でもスタッフみんなで情報を共有し、一緒に考えながら取り組んでいるため、困ったことがあれば相談しやすい環境です。毎月2回、科内勉強会、症例検討会を行っています。

学術活動

学会発表：令和6年度 2件

その他：研修会講演（血液がん治療における多職種連携）

難病診療分野別拠点病院（神経・筋疾患）主催研修での講演実績あり

他部門との連携

各診療科において、定期的に多職種（医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど）カンファレンスを行い、情報の交換、共有を行っています。

また、在宅に関わるスタッフの方にリハビリテーション見学をして頂いたり、文書による情報提供を行うなどの地域連携も行っています。

先輩からのメッセージ

はじめは、不安や緊張することが多かったですが、職場の雰囲気はとてもよく相談などがしやすい環境だと思います。

また、当院には様々な疾患の方がいらっしゃいますので、1年目からいろんな患者さんと関わることができます。臨床に出ると学校で教わった事だけでは分からないことが多くあり、日々勉強していかなければいけませんその分やりがいもあると感じています。





東広島医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士12名

作業療法士7名

言語聴覚士3名

当院の特徴

広島中央医療圏の急性期中核病院として、科学的根拠に基づいた安心・安全な医療を提供します。政策医療であるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設として位置づけられ、これらの診療機能を果たすべく専門的な医療の提供はもちろんのこと、ナショナルセンター等との連携の下に臨床研究、教育研修、情報発信を積極的に行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院では、入院患者さんの急性期（手術前後、発症直後）からリハビリテーションを実施しています。各科から処方される全ての疾患に対応しています。脳神経外科と脳神経内科がありますので神経難病も含めた脳血管疾患の患者さんが特に多いです。急性期ということもあり特に早期離床・早期回復を目指しており、在宅復帰あるいは回復期病院転院まで基本動作能力訓練や環境調整等を行います。また土日祝日であっても当日処方に対応できる診療体制を取っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：739-0041 広島県東広島市西条町寺家513
 電話番号（代表）：082-423-2176
 リハビリテーション科（中須賀）まで
<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

当院作業療法部門は、脳血管疾患・運動器疾患の急性期を中心として、呼吸・循環器、がん患者さんなど幅広い疾患の患者さんを対象として診療を行っています。平均在院日数は2週間弱と短いですが、その中で在宅復帰あるいは回復期病院転院まで日常生活動作練習や機能訓練、高次機能訓練や環境調整等に関わっています。整形外科領域では術後の後療法やスポーツ障害の上肢（肩／肘）に関わることが多く、専門医の指導のもと急性期のリハビリテーションに取り組んでいます。



教育体制

新人教育ではプリセプター制度を基本にしながら、運動器・脳血管などを数ヶ月毎にローテーションします。短期間に同じ疾患をもつ多くの患者さんに触れる機会を設け、評価や訓練の方法を身につけていくことが目的です。人数が比較的少ないこともありアットホームな雰囲気の中で、スタッフ全員で問題解決やスキルアップを目指します。過去には整形外科医師による医師リハ合同勉強会も開催されており、多職種と共に学ぶ機会も大切にしています。

学術活動

県士会や国立病院総合医学会での発表を目標に、科内勉強会の場を利用した発表の練習などを行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間、定期的に多職種とのカンファレンス(医師、看護師、MSWなどが参加)が行われています。また、医師をはじめとした他職種との距離が比較的近いため、カンファレンス時に限らず、さまざまな相談がしやすい環境です。特に整形外科医師との距離は近く、連携をとるために週1回の手の外科カンファレンスを導入しています。

先輩からのメッセージ

当院では脳血管疾患、運動器をはじめとした様々な疾患を対象に発症初期からリハビリを行っています。患者さんの回復の過程などを肌で感じることができ、とてもやりがいのある職場だと感じています。リハビリスタッフ間はもちろん、病棟看護師さんや医師ともしっかりと連携がとりやすい環境が整っており、相談事もしやすいのではないかと思います。ぜひ国立病院機構中四国グループと一緒に働きませんか。





賀茂精神医療センター

対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリセンターホール



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 2名 作業療法士 9名

当院の特徴

当院は中国四国グループ最大規模の精神科病院で東広島市黒瀬町にあります。政策医療である精神疾患と重症心身障害の治療に積極的に取り組み、精神科リハビリテーション活動（精神科作業療法・精神科デイケアなど）は1980年代に開始しました。地域の精神科医療の中核として、精神科救急対応、医療観察法病棟、災害時のDPAT派遣、精神科医療・福祉従事者の育成などの役割を果たしています。2017年から理学療法士による障害児リハビリテーションも開始し、『共に生きる』『その人らしい生活の実現』という病院理念のもと、多職種によるチーム医療を提供しています。

職場責任者からのメッセージ

メンタルヘルスに関する領域はこれからますます重要とされ発展する分野で、対人支援の基本でもあると思います。精神科ではまだ長期入院の患者さんも多く『その人らしい生活』を一緒に探していきます。もちろん職員の『その人らしい生活』も大切にしていまして、業務効率化・休暇取得を推進し、ワークライフバランスを保てるよう配慮しています。



アクセス お問い合わせ先

所在地：739-2621 広島県東広島市黒瀬町南方92番地
 電話番号（代表）：0823-82-3000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://kamo.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院はリハビリテーション活動を「ひとりの人間として当たり前」に社会生活していくことを、入院中から一貫して援助していく活動」と位置づけ、患者さんの自主性・多様性を尊重しながら様々な活動を展開しています。

精神科病棟は「急性期」「回復期」「退院準備期」と機能分化し、回復段階に沿った作業療法を提供しています。リハビリセンターではさまざまな種目を自由に選択できる場を設け、患者さんが自分で選択・決定するプロセスを大切にしています。個人担当の作業療法士が患者さんとコミュニケーションを深める時間も多く設定しています。

急性期病棟での疾病教育プログラム、回復期病棟の認知トレーニング、退院支援病棟の退院準備プログラムをそれぞれ再開し、各病棟ニーズに沿った活動提供やコロナ禍で停滞しがちだった外出をとまなう支援、高齢患者さんの身体活動なども充実させていきたいと思えます。



教育体制

新採用者・転入者の方には4日間の院内研修会があり、精神科領域の基礎から学べます。日々の業務は先輩作業療法士とチームで行うので、アドバイスを受けながら臨床経験を積むことができます。ミーティングや勉強会など悩みを相談できる機会も多いです。新人チェックリストを活用し、自分の到達度を確かめながら成長できます。全国のNHO精神科病院ネットワークを生かした貴重な研修の機会もあります。

学術活動

令和6年度 院内研修会講義 2件
院外研修会講義（松江医療センター「虐待防止研修」）
広島県作業療法士会研修会講義「当院の精神科リハビリテーション」
養成校講義（広島大学保健学科作業療法学専攻「精神障害作業療法学」）

他部門との連携

当院のリハビリテーション科は7部門（作業療法室・デイケア室・理学療法室・心理相談室・ソーシャルワーカー室・療育指導室・訪問看護室）で組織され、同じフロアに医局もあるため多職種連携は日常的な風景です。病棟カンファレンス、患者さんを交えたカンファレンス、退院に向けてのケア会議など、さまざまな場面で作業療法士としての視点・専門性を活かすことができます。

先輩からのメッセージ

入職して3年目になります。現在は2年目に引き続き急性期病棟を担当しています。患者層も多様で、状態も日々変化する患者さんに対し、どう目標を設定し活動を提供していけばいいのか苦戦する毎日ですが、先輩方に相談したり、リハビリ科内の勉強会を通して、少しずつですが広い視野、新しい視点を持って患者さんと関わることができるようになってきました。みなさんも成長できる職場と一緒に働きましょう。





関門医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ

スタッフ数※

理学療法士16名

作業療法士11名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は山口県西端に位置し、下関市から県北西部を医療圏とする救急指定病院です。また、病床数は400床（医療法）で、救命救急センター・ICU・急性期一般・地域包括ケア病棟を有し、救命医療から在宅復帰までの医療サービスを提供している点が特徴です。

職場責任者からのメッセージ



当科では高齢者救急への早期介入と、部門・職種間連携を推進しています。人材育成では、地域に求められる医療人の育成を目指しています。若手職員はジョブローテーションを通じて複数の先輩から指導助言を受け、経験を積みます。また、異動転入の職員には基幹業務を一通り経験頂きつつ、キャリアイメージや専門性に応じて業務を調整しています。当科は諸先輩方からの One-Team 精神を引き継いで、互いにフォローし合いながら、安心して働ける職場環境を目指しております。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1-1

電話番号（代表）：083-241-1199

リハビリテーション科（職場長）安川（やすかわ）まで

<https://kanmon.hosp.go.jp/>



関門医療センター

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法は、脳神経疾患・整形疾患を中心に介入しており、脳梗塞後の上肢機能改善や高次脳機能障害の評価・改善を、整形疾患では上肢の骨折やハンドセラピー・腱板損傷への介入を、神経難病患者に対してはコミュニケーション支援を、また、内部疾患により循環器・呼吸器疾患のある方への運動療法や動作指導等を行っています。

その他がんの方や重症心身障害者へのリハビリテーションも対象としており、幅広い分野のリハビリテーションを行っています。



教育体制

新人教育では、新人スタッフ1名につき、指導者を1名配置しています。加えて、新人教育部会では育成に関する情報共有を行い、指導・助言を行っています。この体制は1年間継続し、この間はできるだけ1人の患者様をゆっくり診療できるよう配慮しています。

勉強会は分野別に担当を決めて、定期的に行っており、幅広い分野の勉強が行えます。また、プチ症例検討会も開催するなど、効率的に自己研鑽ができるよう支援しています。

学術活動

有資格者の育成を図るべく、研修会等に参加しています。三学会合同呼吸療法認定士、心不全療養指導士等が在籍しています。

他部門との連携

診療科ごとに、多職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）と毎週カンファレンスが行われます。また、必要に応じてDr、Ns、MSWと随時連絡を取り情報交換を行っています。

先輩からのメッセージ

急性期の作業療法の役割として、リスク管理に重きを置き、発症早期からリハビリテーションを行うことで、心身機能低下の予防・改善に努めています。また、患者さんの病態の変化も感じやすく、個々の心身機能やライフスタイルに応じて柔軟に対応していくことも重要となります。

患者さんが必要としているADL動作獲得に向けリハビリを行い、目標達成することで、お互いに回復を実感し、やりがいを感じることができます。

国立病院機構中国四国グループと一緒にスキルアップしましょう！



山口宇部医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害

運動器

呼吸器

心臓

がん

神経難病

重症心身障害

発達障害

精神科

ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士5名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は「がん」「呼吸器」「重心」を診療の3本柱として掲げています。がん・呼吸器疾患の専門病院として高度で専門的な医療を提供しています。また重症心身障害児者の専門施設としてきめ細やかな医療と療育を提供しています。中国四国グループの中でも特徴ある診療を行う数少ない施設のひとつです。

職場責任者からのメッセージ



当院は呼吸器・がん・重心に特化した施設です。それぞれの分野を深く勉強するにはとても適した環境だと思います。

関わりが長期にわたる患者さんもいますので、リハビリテーションスタッフ間はもちろん、多職種間でもコミュニケーションを取りながら治療に携わっています。スタッフ同士で気軽に相談しやすい環境です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒752-8510 山口県宇部市東岐波
 電話番号（代表）：0836-58-2300
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日祝休み 休日出勤 365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では重症心身障害児者（脳性麻痺・脳症後遺症・溺水など）・呼吸器疾患（COPD・間質性肺炎・肺がんなど）・がん（主に肺がん）・緩和ケア（がんなど）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。

重症心身障害では呼吸器を装着した症例や超重症例が多いのが特徴です。そのため、関節を動かしたり、姿勢を整えるなどして全身の変形を予防したり、快適な日常生活を送ることができるように介入しています。

一般病棟では上肢や高次脳機能障害に対するリハビリテーション、ADL訓練等を行っています。



教育体制

新人教育では、担当の指導者を配置してOT部門全体で指導・助言を行っています。新人スタッフが慣れるまで患者さんをゆっくり診療できるような体制となっています。また、科内の勉強会や、院内の勉強会も開催しています。

学術活動

院内での研修会や医療安全の取り組みについての発表を行っています。国立病院総合医学会の発表など学会発表にも取り組んでいます。

他部門との連携

PT・STの他リハビリテーション職種とも情報交換を行い、協力して患者さんのリハビリテーションに取り組んでいます。また、入院から退院までの間に定期的に多職種（医師・看護師・ソーシャルワーカーなど）でカンファレンスを行い、患者さんが安心して退院・転院できるよう調整を行っています。重症心身障害病棟では、よりよい入院生活を送れるよう、多職種で目標を設定、共有し、個別カンファレンスを行っています。また、病棟と協力して日常生活のポジショニングを検討しています。

部署を超えて嚥下や骨折予防等についての勉強会を開催し、知識・技術の向上に努めています。

先輩からのメッセージ

重症心身障害児（者）や緩和ケア、呼吸器などすべての病棟の患者さんを担当します。キャリアとしてはやや特殊な職場ですが、興味がある方は、ぜひ一緒に勉強していきましょう。

がんや脳性麻痺など特定の疾患と深く関わっていける職場だと思います。

海が見える桜の綺麗な病院です。ぜひ一度お越しください。





岩国医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士23名

作業療法士9名

言語聴覚士4名

当院の特徴

当院は岩国市を中心に広島県・島根県の一部まで幅広くカバーしており、半径40km・約40万人の医療圏における唯一の救命救急センター、2・3次救急医療および災害医療の要として機能しています。職員は地域の皆さまに信頼される病院であるとの自負をもって働いています。高台にあるため、晴れた日は素晴らしい瀬戸内海の景色が見えるのも自慢です。

職場責任者からのメッセージ



地域における中核病院として幅広い疾患を診療することができます。伝統的に院内でのリハビリテーション科への信頼が厚く専門職として力を発揮できます。離職者が少ないため安定した年齢構成で子育て中の職員も多く、男性職員の育児休暇取得など、ワークライフバランスにかかる取り組みもいち早く検討を重ねてきました。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1-1
 電話番号（代表）：0827-34-1000
 リハビリテーション科（理学療法士長・作業療法士長）まで
<https://iwakuni.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院の作業療法部門は脳血管疾患を中心に、運動器、呼吸器、がんに関わる領域が多岐に渡ります。発症直後からベッドサイドでリハビリテーションを開始し、早期離床、ADL回復を目指しています。また、NICU(新生児集中治療室)でのリハビリテーションや、小児外来リハビリテーションを行っているのが特色です。小児外来では発達障害を対象に、遊びを通じた診療を行っています。

多職種連携も密に行っており、患者さんを中心としたリハビリテーションを実践しています。



教育体制

当科の新人教育プログラムにそって実施し、新人1人に対して指導者を1人配置しています。もちろん他の先輩セラピストにも相談しやすいように心がけています。入職後は興味のある分野を中心に、各人のペースに合わせて診療できるよう配慮を行います。「自分で考え解決策を出せるOT」として成長できるよう支援します。科内の勉強会は年間計画に沿ってPT・STと合同で開催し、幅広い視野・スキルを習得することができます。

学術活動

学会発表：令和6年度0件

他部門との連携

多職種連携の中、OTとしての専門性が磨かれる環境です。

各科のカンファレンスやラウンドに積極的に参加しています。作業療法士は生活支援の専門職として、他職種からADLの工夫や介助方法について尋ねられたり、医師から患者さんの退院後の生活について意見を求められる機会が多くあります。

先輩からのメッセージ

当院OTは脳卒中や上肢骨折、発達障害など幅広い疾患に対応しています。急性期という短い介入期間中であっても、多職種としっかり連携しながら、患者さんへの早期リハビリテーション提供を行っています。先輩OTのみでなく、担当PT・STよりもアドバイスや情報をもらいながら関わることができ、自己の成長に繋がっているよう感じます。新採用者だけでなく転勤者に対しても職場一丸となってサポートしており、雰囲気よくとても働きやすい職場です。





柳井医療センター

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士7名

作業療法士5名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当院は、神経難病患者（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発性硬化症等）、重症心身障害児（者）の専門的医療施設で、山口県全域、広島県西部地区の中核病院として障害者医療を行っています。一般外科はもとより、肛門疾患、直腸、大腸癌の専門的外科治療など入院での人工透析も行っています。

職場責任者からのメッセージ



当院は地域および職員から“選ばれる病院”を目標に、リハビリテーション科は患者さん一人一人に合った安心安全なリハビリテーションを目指しています。瀬戸内海の多島美の絶景を望む、素晴らしい心安らぐ環境の中でスタッフが日々研鑽を積みながら、臨床や研究に取り組んでいます。臨床経験を積み、ワークライフバランスを充実させ、みんなで成長していけるような職場を目指しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95
 電話番号（代表）：0820-27-0211
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://yanai.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院では神経難病、重症心身障害児者、人工透析入院患者さんが多く、『元気になる』というリハビリテーションと反するイメージを持たれるかもしれません。しかし、患者さん一人一人の人生に寄り添いQOLに焦点を当てた支援ができるということは大きな魅力だと思います。

作業療法ではADL支援はもちろんですが、意思伝達装置などを使い自分の思いを伝えられるようなコミュニケーション支援も積極的に行っています。その他、脳卒中や整形疾患など幅広い患者さんにリハビリテーションを行っています。



教育体制

新人教育は、新採用者フォローアップシートを当院に合った形式で使用しています。プリセプター制度を採り入れ、成長段階に応じた柔軟な指導を行っています。また、チーム制を導入し、リハビリテーション職種間の連携も取りやすくしています。作業療法部門では、定期的なミーティングでの情報交換や勉強会を行っています

学術活動

講演：令和6年度 神経・筋疾患ネットワーク研修会

他部門との連携

医師・看護師・ソーシャルワーカー、臨床心理士など、多くの職種と定期的なカンファレンスを行っています。重症心身障害児（者）病棟では保育士との情報交換も密に行っています。

先輩からのメッセージ

入職3年目です。当院は山と海に囲まれており屋外庭園が広く、桜や紫陽花、椿など四季折々の花を患者さんと楽しむことができます。

OTではQOL向上を目的に神経難病の患者さんに対して意思伝達装置・文字盤などのコミュニケーションツールの導入や一人一人の困難さに応じてナースコールの変更を行っています。また、押し花や編み物などの作業活動も積極的に実施しており、特技の手芸を仕事に活かせるのも魅力です。

わからないことは知識と技術が豊富な先輩方が丁寧に教えてくださり、チームのサポート体制も充実しているため安心して仕事に取り組むことができます。

ぜひ私たちと一緒に働いてみませんか？国立病院機構中国四国グループへの入職を心よりお待ちしております。



対象病期

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
-------	-----	-----	-----

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 5名

作業療法士 2名

言語聴覚士 2名

当院の特徴

徳島県東部を診療圏として、政策医療である結核・重心病棟の他、一般病棟（地域包括ケア病棟含む）を有し「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」を病院の理念として、地域に貢献する医療を実践しています。

職場責任者からのメッセージ



当院リハビリテーション科では、病院の理念の「やさしい笑顔で、あたたかな医療を提供します」に基づいて、患者さん個々に合わせたリハビリテーションを提供しています。他部門や他職種ともコミュニケーションを取りやすく、患者さんの気持ちや目標に寄り添うため、連携しながら取り組んでいます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒779-0105 徳島県板野郡板野町大寺大向北
1-1

電話番号（代表）：088-672-1171

リハビリテーション科（職場長）まで

<https://higashitokushima.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では重度心身障害（脳性麻痺・てんかん精神発達遅滞等）、呼吸器疾患（肺結核・COPD・間質性肺炎・肺がん等）、運動器疾患（骨折・靭帯損傷・腰部脊柱管狭窄症等）、脳血管障害（頸髄症・脳梗塞・認知症等）を対象としたリハビリテーションを行っています。

特に地域包括ケア病棟に入院されている患者さんに対しては自宅退院を目指したADL訓練を中心に実施しています。



教育体制

新人に対しては当科の新人教育プログラムに沿って、プリセプターを中心とした指導を行います。

入職時には院内の全体研修や、定期的に研修・講習に参加できる体制があります。

学術活動

徳島県作業療法士会や国立病院総合医学会等の学会への参加、発表を推進しています。

院内での委員会活動や研修で講師として協力しています。

リハビリテーション科内では月1回の頻度で勉強会や症例報告等を実施しています。

他部門との連携

結核病棟、地域包括ケア病棟、重心病棟の各病棟で定期的に多職種カンファレンスを実施しています。

在宅への退院前には、必要に応じて退院後に関わるスタッフやご家族と退院前カンファレンスや退院前訪問を行っています。

先輩からのメッセージ

作業療法士になり14年目になります。作業療法を通じて重心病棟の患者さんや地域包括ケア病棟の患者さんの純粋な笑顔を見ているととても楽しいです。地域包括ケアのリハビリテーションでは在宅生活が可能となるように家屋評価やADL・IADL動作練習を実施し、早期退院を目指すように心がけています。カンファレンス等も多く他部署との連携ができとても勉強になります。また、研修等も多く参加させて頂き自分自身のステップアップになります。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士 9名

作業療法士 5名

言語聴覚士 3名

当院の特徴

政策医療である神経筋疾患に対する医療を主に提供しています。県内にとどまらず、他県からの紹介も多く、医師や看護師、コメディカル部門との連携も充実しており、質の高い医療サービスが実現できるような体制です。古くからスポーツ医療も盛んで県内の中高生が多く来院し、リハビリテーションを実施しています。また、ロボットリハビリテーションにも取り組んでおり、10年以上の実績があります。

職場責任者からのメッセージ



リハビリテーション科は「常に患者さんの病態を把握できるように日頃から資質の向上に努める。常に患者さんに寄り添ったリハビリテーションを提供する。」をモットーに臨床に臨んでいます。

当院では慢性進行性に病態が変化する神経筋疾患の患者さんが多く、中には精神的に疲弊している患者さんもおられます。高度で質の高いリハビリテーションを提供するにあたって、自らのスキルを向上させることはもちろんのこと、誠心誠意、患者さんに寄り添って医療にあたるのが重要と考えています。「治療してあげているのではなく、させていただいている」。治療を通して患者さんから学ぶことも多く、注意深く観察することで成長していくことができると思います。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒756-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地
徳島県吉野川市鴨島町敷地1354番地
電話番号（代表）：0883-24-2161
リハビリテーション科（職場長）まで
<https://tokushima.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門の主な対象患者さんは筋ジストロフィー、パーキンソン病関連疾患、筋萎縮性側索硬化症などの神経筋疾患が主となります。作業療法では機能訓練やADLトレーニングのほか、意思伝達装置の導入や特殊スイッチの紹介・調整、自助具や生活環境の調整などを他職種と連携しながらすすめています。また、入院患者さんのみならず、外来患者さまの運動・生活指導にも関わっており、より生活に密着した関わりも担っています。

また、パーキンソン病関連疾患の短期集中リハビリテーションやボトックス治療と併用してパワーアシストハンドなどのロボットリハビリテーションを行っていることも当院の作業療法部門の特徴です。



教育体制

リハビリテーション科内での勉強会や院内研修も定期的に行っています。作業療法士は5名と少人数であり、部内全体で援助をします。意思伝達装置や特殊スイッチなどの機材が整っており、勉強しやすい環境です。

認定作業療法士、呼吸療法認定士、公認心理士、介護支援専門員など現場で必要となる関連資格の取得者も在籍しており、取得に向けたサポートも行います。

学術活動

令和6年度 学会発表2件（国立病院総合医学会、リハビリテーション医学会）
積極的な学術発表やサポートを行っています。

他部門との連携

定期的なカンファレンスや入院中・退院前の環境調整（意思伝達装置やスイッチ、家屋環境など）を多職種（医師・看護師・ソーシャルワーカー、臨床心理士など）と連携しながら行っています。

スタッフルームやリハビリテーション室は理学療法士・言語聴覚療法士と共有しており、いつでもコミュニケーションが取りやすい環境です。

先輩からのメッセージ

意思伝達装置やスイッチの調整など、患者さんの有する能力をどう活用すれば何が出来るのかを考え、実現することが作業療法の魅力の一つだと思います。

国立病院機構で知識・技術や自分のアイデアを一緒に伸ばしていきましょう。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士4名

言語聴覚士2名

当院の特徴

地域を支える病院として、①香川県の難病医療支援ネットワークにおける神経筋疾患分野の拠点病院としての難病医療、②結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療、③高齢者や障害者にも優しい一般医療、の3つの機能を柱として診療にあたっています。

職場責任者からのメッセージ



当院は神経難病や呼吸器疾患の患者さんを中心とした維持期リハビリテーションや、急性期病院から転院してこられた患者さんに対して、患者さんの目線で自宅退院を想定したリハビリテーションを展開しています。スタッフのチームワークは抜群に良く、コミュニケーションを大事にしながら患者さんに寄り添うリハビリテーションを提供しています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒761-0193 香川県高松市新田町乙8
 電話番号（代表）：087-841-2146
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://takamatsu.hosp.go.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、主にALSをはじめとする神経筋難病（パーキンソン病、多系統萎縮症、筋ジストロフィー等）を対象としたリハビリ（環境調整、ADL訓練、特殊スイッチや意思伝達装置等のコミュニケーション手段の支援等）を行っています。また、整形疾患や脳血管障害に対しては、手の機能回復訓練や日常生活動作訓練を実施しています。

対象患者さんとかかわる病期は、発症直後・進行期・慢性期と様々で、長期療養だけでなく、短期入院による在宅生活へのサポートも、多職種と連携しながら進めています。



学術活動

学会発表 令和6年度：1件

香川県の神経筋難病の拠点病院の1つとして、神経筋難病患者さんや地域からの意思伝達装置や自助具に関する電話相談に応じたり、保健所からの在宅生活調整のための自宅訪問の依頼等に随時対応しています。

他部門との連携

入院から退院までの間に院内の関係職種（医師・看護師・地域医療連携室）とカンファレンスを定期的に行っています。

退院前カンファレンスや退院前訪問等を行い、病院から在宅へスムーズに移行できるよう地域スタッフとも連携をはかっています。

先輩からのメッセージ

神経筋難病の方を担当することが多く、その方の希望や身体機能、病状進行を考えながら、特殊スイッチや意思伝達装置の選定・支援を行っています。難しいと感じることもありますが、先輩OTに相談しながら、病棟スタッフやご家族、そして地域の方々とも一緒に取り組んでいます。





対象病期

急性期	回復期	慢性期	維持期
-----	-----	-----	-----



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士15名 作業療法士6名 言語聴覚士6名

当院の特徴

当院は成育医療、成人医療、重症心障害児者に医療を提供出来る複合型の病院あることが特徴です。リハビリテーション科では小児から成人まで、そして急性期から慢性期まで、多種多様なリハビリテーションを提供しています。当院の「ホスピタルアート」も必見です。まずは是非HPをご覧ください。

職場責任者からのメッセージ



“こどももおとなも支える”がテーマの当科では、年齢や疾患を問わず、さまざまなケースに関わりながら臨床力を磨くことができます。多職種が連携するチーム医療の中で、現場力と対応力が育つ環境です。人と深く向き合い、成長したいと思う職員が多数在籍しているので、若手職員にとっては安心感のある職場といえます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1
 電話番号（代表）：0877-62-1000
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://shikoku-mc.hosp.jp/>

作業療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、小児の発達支援から、脳卒中や整形外科疾患、神経難病の患者に対するADL訓練、退院支援まで、幅広い領域をカバーしています。特に小児リハでは感覚統合や遊びを通じた支援を展開しており、家族との関わりも重視しています。成人領域では、在宅復帰を見据えた生活動作訓練や福祉用具選定、住環境調整まで包括的に対応しています。多職種との連携のもと、評価から支援計画立案、実践までを一貫して経験できる体制が整っています。



教育体制

新人1年目の方には、プリセプターとメンターを配置し、マンツーマンでの指導およびメンタルサポートをしています。科内勉強会やOT勉強会を通して、気軽に相談・質問できる場を設けております。職員全体で丁寧で分かりやすい指導を心がけており、学会発表に向けての指導も行っています。テーマの決定・抄録作成・発表練習など、細やかに指導しています。

学術活動

学会発表：令和6年度1件

その他：地域医療研修会として定期的に学習会 講師も引き受けています。

他部門との連携

成人部門では、各科ごとに週1回の多職種カンファレンスを開催し、情報共有を図っています。

在宅復帰患者に対しては、退院前カンファレンスを開催し、退院後も安全に生活して頂けるよう支援しています。成育部門では、発育・発達に応じた介入を心がけ、主治医・看護師との合同カンファレンスを実施しています。

先輩からのメッセージ

「四国こどもとおとなの医療センター」は、その名の通り小さなお子さんからご高齢の方まで多くのリハビリテーションを実施しています。対象領域はICUから回復期、運動器や脳血管障害まで幅広いため、多くの知識や高い対応力が求められますが、各領域に精通された先輩方が丁寧に教えてくださるので作業療法士として専門性を向上させるうえでも充実した病院です。院内各所のアートによる楽しくてあたたかな雰囲気はこの病院ならではの魅力だと思います。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

当園外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ スタッフ数

理学療法士 2名

作業療法士 1名

当園の特徴

当園はハンセン病の基本治療を既に終了した方に、ハンセン病の後遺症治療と一般疾患治療を提供しています。後遺症治療は皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・外科・整形外科等の診療科で治療が行われ、一般治療では内科・心療内科・泌尿器科等で、悪性腫瘍・脳血管障害・心臓病・高血圧症・生活習慣病・認知症等入所者の高齢化に伴う医療内容が大きな比重を占めています。

職場責任者からのメッセージ

私たちは、当園の特徴や部門紹介でもあるように生活期の入所者の方を対象にリハビリテーションを提供しています。スタッフ数は少数のため忌憚なく意見交換ができ主体的に業務に取り組めると思います。また、休暇取得・福利厚生も充実しているのでワークライフバランスを保ちながら継続して仕事に取り組むことが可能です。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒764-0198 香川県高松市庵治町6034-1

電話番号（代表）：087-871-3131

リハビリテーション科（職場長）まで

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/osima/index.html

アクセス：当施設は大島という島内にあり、詳細は上記の施設ホームページで確認していただければ幸いです。

作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当園の理念

「私たちは、入所者の尊厳を守り、入所者の心情を理解し、入所者が安心して生活できる環境を提供します。」

作業療法部門は筋力や可動域の維持から日常生活動作の獲得、認知機能の維持改善、レクリエーションによる運動推進など幅広く介入しています。

入所者皆さんの平均年齢は約87.4歳です（令和7年3月）。リハビリテーションの対象者はハンセン病後遺症と高齢疾患の重複障害者であり、多職種間の連携が必要です。急性期の施設と違い、最期まで関わられるのが特徴です。

リハビリテーション室



教育体制

各種委員会チーム会主催の講演、部署内での勉強会、レクリエーションへの参加などを行っております。また園内の研修については、可能な限り参加できる環境を整えています。

学術活動

園内における健康教室「転倒予防」、勉強会「ボディメカニクス」の講義

他部門との連携

必要時に他職種（医師・看護師・介護員・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

先輩からのメッセージ

療法士だけでなく、主治医や看護師、介護士など職員一丸となり、入所者の皆様へより良い環境を提供できるように日々努力を重ねています。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士5名

作業療法士1名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、2019年にはがんゲノム医療拠点病院に指定されました。また緩和ケア病棟が併設されており、がん患者さんの急性期から緩和期まで医療体制が整備されています。

職場責任者からのメッセージ



当院は主に「がんのリハビリテーション」を実施しています。周術期・進行期から緩和期までがん医療におけるリハビリテーションの役割を担っています。療法士はもちろん、医師・看護師も「がんのリハビリテーション研修」を受講できる体制が整備されています。また、当院は研修を主催する立場にあり、研修会では講師やファシリテーターを努めています。診療業務に加えて研究活動にも力を入れており、文献抄読会や関連学会での発表、論文執筆などを積極的に行っています。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒791-0280 愛媛県松山市南梅本甲160

電話番号（代表）：089-999-1111

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp/>

リハビリテーション科（職場長）まで



作業療法部門

勤務形態

土日休み

休日出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

当院は、四国地方の「がん」に関する中心的施設として、ナショナルセンターとの連携の下に、高度で専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の機能を備えた施設として整備されています。

リハビリテーション部門では、臨床研究、解析、臨床へのフィードバックを行うことで、より多くのがんの患者さんのQOL向上に寄与すべく、日々臨床を続けております。

作業療法部門で対応している疾患は、乳がん、頭頸部癌、骨転移、脳転移、がんの転移による末梢神経疾患、リンパ浮腫など多岐に及びます。



教育体制

新入職時の院内新人教育研修、がんのリハビリテーション研修会への参加、週1回の骨軟部腫瘍・整形外科、リハビリテーション科主催の論文抄読会、その他随時、院内勉強会が開催されています。

学術活動

「乳がん術後患者の身体活動、QOLなどについての実態調査」、「AMED乳がん術後の外来リハビリテーションに関するランダム化比較試験」などの研究活動や、がんのリハビリテーションに関する研修会講師などを実施しています。

その他、リハビリテーション科として「がんのリハビリテーション研修会」を主催しています。

他部門との連携

リハビリテーション科医師、看護師、リハビリテーションスタッフによる多職種カンファレンスを毎日、乳腺外科医師、看護師、作業療法士でおこなう乳腺外科病棟回診を週1回、形成外科医師、看護師、理学療法士、作業療法士によるリンパ浮腫ミーティングを月1回実施し、リハビリテーション介入前、介入中の方の状態把握、未介入の方においてのリハビリテーションの必要性の有無などを検討、共有しています。

先輩からのメッセージ

人は、がん罹患すると、がんの浸潤によって体力が消耗しやすい状態になります。そこに手術、化学療法など侵襲性の高い治療をすることで、容易にADLやQOLの低下をきたします。

当院のがんのリハビリテーションは、エビデンスをもとに、より効果的な介入を図り、その人らしい生き方を過ごすお手伝いをすることを目指しております。



対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士4名

言語聴覚士3名

当院の特徴

当医療センターは政策医療と地域医療を2本柱としています。政策医療では結核、重症心身障害、神経難病の専門医療施設として広く県内から患者さんを受け入れています。またポストNICU病床を設け、障害を持った小児医療にも取り組んでいます。地域医療としては東温市と周辺地域の一般急性期医療に加え、高次の循環器・呼吸器・神経・運動器疾患のリハビリテーションや生活習慣病対策にも力を入れています。平成28年4月からは松山医療圏の2次救急輪番病院として救急医療の一端を担っています。

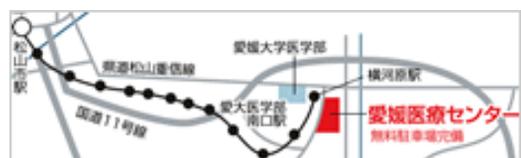
職場責任者からのメッセージ



当科のリハビリテーション対象疾患は、運動器・脳血管・呼吸・循環・障害児者など多岐に亘っており、療法士には幅広い知識と技術が必要とされます。そのため技術の研鑽だけでなく、学会発表や各領域の勉強会・研修会への参加等の学術活動、各資格取得などを奨励しています。今年度は新卒PT2名を迎え、より基礎的な内容を中心に勉強会を定期的の実施し、新人教育にも力を入れています。ぜひ、国立病院機構中国四国グループで一緒に働きましょう。

アクセス お問い合わせ先

所在地：愛媛県東温市横河原366
 電話番号（代表）：089-964-2411
 リハビリテーション科（職場長）まで
<https://ehime.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み 休日出勤 365日

早出あり 遅出あり

部門紹介

作業療法部門では、一般病棟にて神経難病や上肢の傷病、呼吸器・心疾患等のさまざまな疾病に対して、機能訓練や生活支援（自助具の提案、ADL・IADL指導）、メンタルケアなどを行っています。また重症心身障害児者病棟では、変形拘縮へのポジショニングや遊びの提供、笑顔発見に努め、ポストNICU病棟では、子供の将来に向けて今後の方向性を家族と共に考えていく事を重要視し、機能訓練や生活指導に取り組んでいます。さらに結核などの感染症患者専用の隔離病棟へ赴き、廃用予防やメンタルケア、退院後の生活指導等の作業療法も実施しています。GWや年末年始など、長期の休暇においては、必要時勤務をすることがあります。



教育体制

教育体制としては新人教育プログラムをもとに“気づき・考え方”の幅の広がりに着目し、さまざまな方面から患者像を捉える事ができるよう、OTのみならずPT・STとも密にコミュニケーションを取る事で、リハビリテーションスタッフ全体が指導・助言を行っています。また、リハ科内で月に1回勉強会を開催し、臨床業務に関する知識の習得に努めています。

学術活動

さまざまな学会発表や、保健所での神経難病に関する講演会、東温市で開催される健康フォーラムや親子の医療体験学習など、院内外での学術・講演活動を行っています。国立病院総合医学会への参加も行っております。

他部門との連携

各科ごとに定期的に他職種（医師・看護師・ソーシャルワーカー・療育指導士・保育士など）とのカンファレンスを実施しています。また呼吸、栄養、糖尿病などのさまざまなサポートチームにリハビリテーションスタッフが所属し、他職種とともに患者さんへのサポートや勉強会を通じて連携を図っています。

先輩からのメッセージ

スタッフ皆和やかで相談などが気軽にできる環境にあり、育児や介護休暇などの長期休業にも、迅速に人員補充をしてくれるなど、お互い気持ちよく仕事ができます。また急性期～維持期まで幅広く関われ、様々な疾患の患者さんに携わることができるのも魅力の一つです。その他にも感染対策や医療安全に対して他部門と協力し、対策に力を入れています。





高知病院

対象病期

高度急性期

急性期

回復期

慢性期

病院外観



リハビリテーション室



対象疾患

脳血管障害	運動器	呼吸器	心臓	がん
神経難病	重症心身障害	発達障害	精神科	ハンセン後遺症

リハビリ
スタッフ数

理学療法士9名

作業療法士3名

言語聴覚士2名

当院の特徴

当院では、主に呼吸器疾患、整形疾患、がん、重症心身の患者さんに対して理学療法を行っております。呼吸器に関しては、平成23年8月に呼吸器センターを設立し、医師、コメディカルと協力して包括的に診療することができるようになっております。整形疾患では、脊椎疾患、人工関節、骨接合術後の患者さんが多く早期から関わっています。

職場責任者からのメッセージ



私たちは「患者さんへ最善のリハビリテーション医療を」という理念のもと、職員一人一人がリハビリテーション専門職として働いています。高知県では唯一の国立病院機構施設で、結核病棟や療養病棟、新型コロナウイルス感染症病棟といった地域のセーフティネットの役割を担っています。また整形外科の手術件数も多く、急性期運動器リハビリテーションの専門性を高めることができます。

アクセス お問い合わせ先

所在地：〒780-8507 高知県高知市朝倉西町1-2-25
 電話番号（代表）：088-844-3111
 リハビリテーション科（渡利）まで
<https://kochi.hosp.go.jp/>



作業療法部門

勤務形態

土日休み

土曜出勤

365日

早出あり

遅出あり

部門紹介

作業療法部門では主に整形疾患（肩関節疾患など）・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・間質性肺炎・肺がんなど）・重症心身障害児者（発達促進を含む）を対象としたリハビリテーションを中心に取り組んでいます。

特に当院では、肩関節疾患の患者さんが多くいらっしゃいます。そのため関節鏡下肩腱板断裂手術やリバーズ型人工関節置換術などの術後リハビリテーションに関わる機会が多く、作業療法ならではのADL指導や機能訓練を展開しています。



教育体制

新人教育プログラムによる卒後教育、臨床業務に関わる支援だけでなく、様々な資格（認定作業療法士、3学会合同呼吸療法認定士、公認心理士、MTDLP指導者）を有するスタッフも在籍しており、資格取得や学会発表などの学術的支援体制も整っています。

学術活動

令和6年度学会発表 4件

各学会や国立病院総合医学会などの学会で研究発表を行っています。（高知県作業療法学会、高知県整形外科集談会、日本肩関節学会、国立病院総合医学会、四国作業療法学会）
発表テーマ

「肩腱板断裂患者における術前の障害像とADL自立度との関連性について」

「肩腱板断裂患者における術前の破局的思考と術後成績、遷延性術後痛との関連性」等
各学会、研究会などからの講師依頼においてスタッフの派遣を行っています。

他部門との連携

入院から退院までの間に定期的に他職種（医師・看護師・メディカルソーシャルワーカーなど）とのカンファレンスが行われます。

在宅医療に関わる職種（訪問医療や看護・リハビリテーション）の方々と、退院前カンファレンスや退院前支援などを行い、地域医療と関わりが深いのも特徴です。

先輩からのメッセージ

日々の業務サポートに加え、研究や講習会、院内研修など「学びたい!」という気持ちを全力で応援しており、自分のペースでスキルアップできる環境が整っています。

また、育児時間制度の活用や勤務調整など、男女問わず子育てを支え合える体制も充実しており、ワークライフバランスを大切にしながら、安心して働ける環境が整っています。

「ここで成長したい」「楽しく働きたい」そんな思いをお持ちのあなたを、心から歓迎します。

